「防災タイムライン」を特別授業・学校設定科目「くらしと安全Ａ」で実践

1 月 28 日(木)，東京法令出版東北支社長の杉山克洋氏を特別講師にお迎えし，災害科学科 1 年生(41 名)を対象に「防災タイムライン」の特別授業「くらしと安全Ａ」を行いました。

「防災タイムライン」の取組は，2020 年 11 月 11 日に河北新報社が主催する「むすび塾(第 99 回)」で，災害科学科 8 名が東日本大震災と 2019 年の台風 19 号などの体験を踏まえ，風水害の危険が迫った場合の自分と家族の避難行動について専門家と意見を交わし，ワークショップを行いました。今回は，この時受講した 8 名がファシリティター役として，事前に自分の住んでいる地域のハザードマップや家族との話し合いをもとに，それぞれの「マイ・タイムライン」づくりに取組ました。班ごとの話し合いを行ったあと，杉山氏から「常日頃からの避難経路の確認と検討が必要です。」など助言をいただき有意義な特別授業となりました。

今後はこの取組を発展させ，地域や他の中・高校生との交流に生かしていきたいと考えています。

【生徒の感想】

「私が今回学んだことは実際に被災した場合の具体的な行動を整理する大切さです。なぜなら，実際に被災した場合，何をすればいいのか分からず冷静に物事を考えて行動することはできないと考えたからです。タイムラインを事前に作成し，「誰が」「どこで」「何をするのか」を明確にすることで，万が一被災した場合も混乱せずに行動できると思いました。私はこの経験を生かして，「津波」を想定したものも作成して実践してみようと思いました。」(玉川淳之介(仙台市立八軒中学校))

「「いつ」「どこで」「どんな災害が起こるか」は誰にも分りませんが，どんな災害が襲ってきても，事前に備えておけば自分の命はもちろん大切な家族の命を救うことができます。今回の防災タイムラインの作成は，災害を学び身近に感じている私たちだからこそ，一人ひとりが災害を決して恐れずに，真剣に災害と向き合い，考えることができた良い機会でした。いつかまた大きな災害が起きたとしても恐れずあせらず，正しい行動ができると思います。」(三浦誠鈴(仙台市立館中学校))